

株式状況	(2024年3月31日現在)
発行可能株式総数	19,900,000株
発行済株式総数	13,831,091株
株主数	10,766名

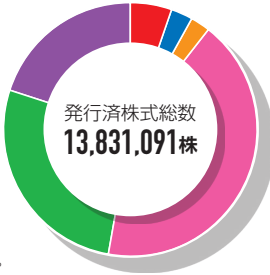
大株主(上位10名)	(2024年3月31日現在)
株主名	所有株式数(株) 持株比率(%)
平澤 創	4,865,938 43.88
株式会社第一興商	367,363 3.31
清原 達郎	279,900 2.52
株式会社SBI証券	274,538 2.47
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	273,900 2.47
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	244,900 2.20
吉本興業ホールディングス株式会社	206,870 1.86
高石 文夫	169,500 1.52
株式会社講談社	138,400 1.24
三井住友信託銀行株式会社	112,500 1.01

※当社は自己株式を2,743,450株所有しておりますが、上記大株主から除いております。
※持株比率は自己株式(2,743,450株)を控除して計算しています。
※持株比率は表示単位未満の端数を切り捨てて表示しています。

所有者別分布状況(%)

	構成比
金融機関	5.39
証券会社	2.79
外国法人等	2.58
その他法人	42.21
個人・その他	27.19
自己名義株式	19.84

※発行済株式総数13,831,091株の構成比率です。
※構成比の表示単位未満の端数は、四捨五入して表示しています。



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

単元株式数 100株

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人
事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 ☎ 0120-782-031

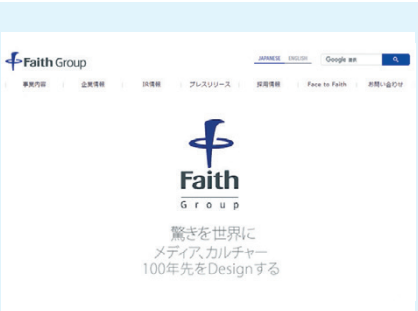
電子公告
<https://www.faiith.co.jp/ir/koukoku/>
ただし、電子公告による公告をすることができない事故その他のやむを得ない事由が生じた場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

お知らせ

- 証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会には、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行株式会社が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関にお問合わせください。
なお、三井住友信託銀行株式会社各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行株式会社の本支店でお支払いいたします。
- 配当金の口座振込をご指定の株主様と同様に、「配当金領収証」により配当金をお受け取りになられる株主様宛にも「配当金計算書」を同封いたしております。配当金をお受け取りになった後の配当金額のご確認や確定申告の添付書類としてご利用いただけます。(株式数比例配分方式を選択された場合の配当金のお振込先につきましては、お取引先の口座管理機関(証券会社等)へお問合わせください。)

免責事項

本報告書に記載されている将来に関する予想については、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。実際の業績は、様々な要因の変化により、異なる場合があることをご承知おきください。
本報告書に記載している会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。



ウェブサイトのご案内

フェイス・グループ各社のサービスや注目のコンテンツ情報、最新トピックス等を掲載しています。

<https://www.faiith.co.jp/>



フェイス・グループ X のご案内

フェイス・グループの様々な情報を発信しているSNSです。以下のURLからフォローいただけます。

https://x.com/faiithgroup_1992



株式会社フェイス

〒604-8171
京都市中京区烏丸通御池下る虎屋町
566-1 井門明治安田生命ビル
<https://www.faiith.co.jp/>

お問合わせ先

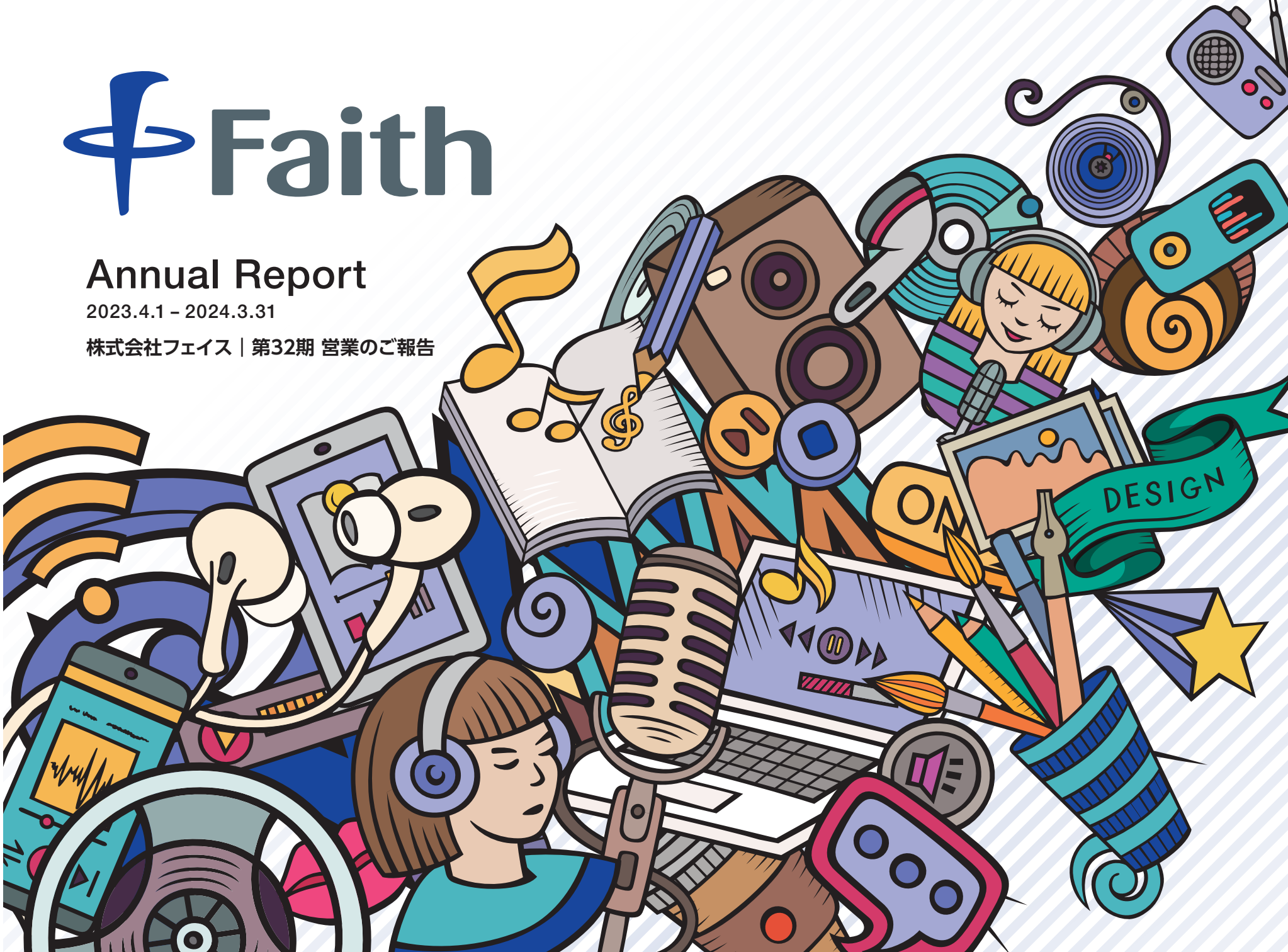
TEL. 075-213-3933
FAX. 075-213-3833



Annual Report

2023.4.1 - 2024.3.31

株式会社フェイス | 第32期 営業のご報告



未来派志向×温故知新 ～ブーム創出の仕掛けではなく 心の豊かさを象徴する文化発信を～

代表取締役社長

平澤 創

あからさまに表出した メディア価値の大転換

サブスクリプションモデルの浸透により、音楽はより聴きやすく、身近な時代になりましたが、ゲームや動画配信等に費やされる時間の増加に伴い、楽曲あたり、アーティストあたりの単価は低下していると感じます。

さらに、メディア価値が大きく変わったことをいよいよ誰もが感じられる時代となりました。例えば、1年を総括するようなコンテンツは、その時代を彩った「流行り」を共有するにも至らず、ネット上で「バズった」もののレパートリーを1つの枠に折り込んだようなものだったと感じた人も多いのではないのでしょうか。「バズっている」と言葉にした時には、すでに終わっている。経済的に何かを生み出すことも、普遍的な何かにつながっていくこともない、いわば単なる瞬間の切り取りでしかなく、一過性の「バズる」という現象自体の良し悪しの評価はわかりませんが、メディア自体の価値が変わったことは、より明らかに見えた機会となりました。

半歩先を具現化する ベンチャーと連携した 新しい事業構造の創造へ

足下では、今ではなく、近未来を感じる気づきがこれまで以上に重要になってきました。一歩先、三歩先の将来からバックキャストに新規事業を立ち上げるのではなく、半歩先くらいを見る感覚の方がいい、そうしたタイミング、時代観にあると捉えています。これまでの世界初・日本初を目指す事業創造ではなく、「振り返ってみたら、世界初・日本初だった」と思えるくらいがちょうどいいという感覚です。

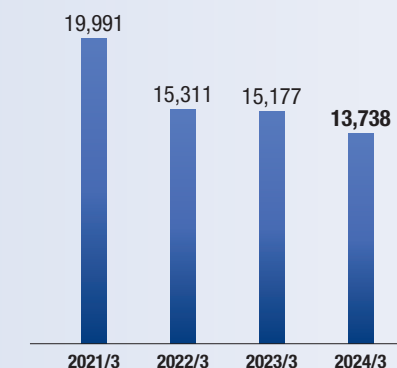
その視点で見ると、「半歩先に気づいてしまった人たちが」立ち上げたベンチャーが世の中には数多く存在していることがよく見えます。振り返れば、フェイス自身、創業時は時間をかけて仕掛けを創れる資金の余裕もなく、世界初の音楽データダウンロードの仕組みの構築もわずか1～2ヶ月というスピード感で成し遂げました。いけるかどうかかわからずとも、とにかくやってみる、そうした若い感覚とスピード感が一層必要であると感じる今、ベンチャーの気概を持つ人たちとともに数多くのトライ&

エラーを実行しながら事業化していく、それが中期的な視点では、未来を担う第一歩になると判断しています。

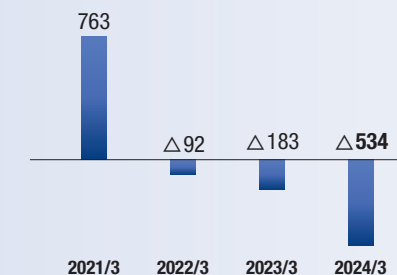
また、空前の円安を迎え、従来型のモノづくりから頭脳や感性への投資にシフトすることがより重要になったと捉えています。それは、モノづくりを否定することを意味するのではなく、過去の成功体験に倣った発想から離れることに重きをおくということです。かつてプロモーションは、展開したいエリアの代理店にプロダクトを紹介し、3大マスメディアでPRする手法が長らく取られてきました。近年はSNSの活用が叫ばれますが、実のところ、そうした勢いによる拡散ばかりではなく、方法論は無数にあるはずです。論理的に広げる手法もいくつか見えてきており、それがベンチャーとの連携を強化することの根拠の1つです。グローバルとは、実は、ローカライズであり、世界各国にその土地の文化や生活習慣が浸透しているベンチャー企業をいかにネットワークしていくか、それを1つの手法として非常に重要視しています。

連結財務ハイライト

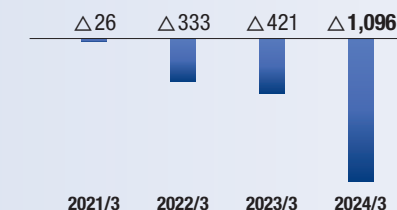
連結売上高 (単位:百万円)



連結営業利益 (単位:百万円)



親会社株主に帰属する 当期純利益 (単位:百万円)



好奇心をくすぐる新しさで 既存体験を昇華させる

海外と日本では、美術や音楽に対する意識・行動の違いがあります。アーティストの将来に投資する傾向の強い海外、一定の評価を得ている作品・アーティストに対して積極的に消費行動をとる日本と比較されがちですが、新しいものに飛びつくという傾向は日本人にも間違いなくあります。定評への共感と新しいものに飛びつく好奇心、けれども全く見知らぬものには手を伸ばさない、この感性を捉えるもの、ここにフェイス・グループが手掛ける方向感の1つがあります。

今では当たり前のことですが、たかだか四半世紀前には、当然のことながら水は飲んでいたものの、その水を商品としてペットボトルで買うようになるとは誰も予想していませんでした。同様の事象が生まれる要素は、今という真只中にあり、その行為や体験に半歩先の技術や発想、仕掛けを掛け合わせ、新たな体験をもたらすサービスへと昇華させる、その発想をどれだけ多くのことに適用して考えることができるか、それが「今ないものを創る」ことの本流です。

「未来予測」における フェイス・グループの優位性

優位性は個々人の進化であり、適応力であり、個々が自由な発想で物事を見て、さまざまなことを発見しながら進化していける、そうした環境づくりが重要です。

昨年4月に実施した組織再編以降、個々人において集中すべきことに対する責任と自覚が鮮明になりつつあり、「選択と集中」が進んできたことから、組織改革をさらに大きく前進させるため、転進支援施策を実施しました。フェイス・グループが有する優位性を改めて鑑み、また自らの優位性を探求し、自覚的になることで、その優位性×優位性の掛け合わせから新しいサービスの創出に向かう、そうした個々の進化を加速させる機会という位置づけです。

また、資産的優位性という視点からは、日本初のレコード会社である日本コロムビアが聚合してきたアーカイブは、想像以上に価値を有する資産です。ブギウギ*に始まる商業音楽のみならず、例えば、沖縄全域に広がっていた雨乞いの歌すべてを約60年前に収録し、LPレコードを10数枚組で出版するなど、古来、受け継がれてきた

文化・芸能に関する文化的価値の高い貴重な音楽や映像資産も非常に多く残っています。こうしたアーカイブ資産を改めて整理し、新たな技術やニーズとの掛け合わせにより、これからの時代に求められる形で活性化させること、そうしたこともできる点が、歴史あるベンチャー企業、フェイス・グループの強みの1つでもあると捉えています。

新たなプラットフォームの 創出を通じて未来を創造する

アーティストがいてファンがいる、この関係性はこれからも変わりません。AIの登場等により、音楽の創り方やその関係性が変わるという人もいますが、人間が人間である以上、人と人とのつながりの中に感じる文化・芸術の本質から離れることはできません。より多くの枝葉ができること自体は否定しませんが、本流そのものは普遍的であり、その間をつなぐ新しい架け橋となるディストリビューションの仕組みを考え、創り上げるのが、創業時より変わらぬフェイス・グループの使命です。

スピード感とテクノロジーに代表される



現代のダイナミックな感覚「未来派志向」の徹底的破壊からの新生の意識は持ちつつ、温故知新と新たな発想・技術との掛け合わせからの化学反応により、ユーザーに音楽を届けていく手段・手法の未来創造に邁進していきます。株主の皆様におかれましては、引き続きご支援いただけますようよろしくお願い申し上げます。

*ブギウギ：2023年度後期NHK連続ドラマ小説「ブギウギ」。日本コロムビア専属の「笠置シズ子」がヒロインのモデル。

上妻 宏光

A G A T S U M A H I R O M I T S U



「SHAMISEN」が 世界共通語に なる日を目指して

—— 津軽三味線をはじめたきっかけを教えてください。
父親が趣味で津軽三味線をやっていたからです。三味線のなかでも、津軽三味線は強く弦をたたくという特徴があります。ロックのようなリズムや迫力に惹かれました。
—— 上妻さんの音楽は、他ジャンルの音楽との融合が特徴的です。どのような音楽体験をされてきたのですか？

至ってふつうです。幼い頃はアニメソングも聴いていましたし、音楽番組で歌謡曲もよく聴いていました。ただ、4つ年上の姉の影響もあって、小林克也さんの『ベストヒットUSA』などで洋楽にも早くから触れていました。そういう体験が、音楽を含めた異国文化への憧れを産んだように思います。
—— その体験もそうかもしれませんが、津軽三味線と他ジャンルの音楽を融合させようと思ったのはなぜでしょう？

「日本の楽器を知らない日本人が多いな」と感じたからです。三味線をやっていることが「珍しい」ととられて、それこそ天然記念物みたいな扱いをされるのではなく、一般的にしたいと思ったのです。そのためには、ポップスなどさまざまな音楽の感覚を取り入れ、多くの人に聴いてもらえる三味線のサウンドをつくらなければならないと考えました。
—— 他ジャンルの音楽との融合の最大の魅力は？
化学反応というか、「見たことのない景色」を見られる点ですね。自分自身でも「こんな音楽になるのか！」と思うことも多いですし、オーディエンスのみなさんも「三味線とはこういうもの」という先入観が覆されて驚かれると思います。

—— これまでさまざまな方とコラボされていますが、音楽というジャンルを越えた志村けんさんとのコラボも印象的です。志村さんは熱心でした。テレビなどで共演すると、「三味線をやりたいんですよ」という人は少なくないのですが、なかなか実現には至らないことが多い。でも、志村さんはわたしのオリジナル曲をすぐ気に入ってくれて、「本当にやりたいから連絡先を教えてください」と。十数年の師弟関係になりました。

—— 2024年5月24日には、チェリストの宮田大さんとセッションされた新譜「和響～Encuentro～」がリリースされます。三味線もチェロも基本的には単音を奏でる楽器ですから、ピアノなどの伴奏が加わるのが通常です。そうすると大船に

乗っているような安心感があるのですが、あえてそれに頼らず、ふたつの弦楽器だけでどこまで音楽をつくれるのかということにトライしたいと考えました。しかも、三味線とチェロの組み合わせは前例がほぼありません。その「頼りにするものがない」という緊張感のある状況からなにが生まれるのかを知りたいという思いから、宮田君に声をかけました。

—— 同じ5月24日からツアーもスタートします。
やはりこれまでにない編成の音楽という、新たな世界を楽しんでほしいですね。デジタル全盛のなかでアナログのよさというものも感じていただけるのではないのでしょうか。
—— 今回の新譜も含めてチャレンジをずっと続けていってほしいですが、今後の活動についてお聞かせください。

海外で「ジャパニーズギター」と説明されるのではなく、「SUSHI, KARAOKE, SHAMISEN」といった具合に、日本語のままでも通じるくらいに三味線の知名度を上げていきたいですね。ただ、ひとりでそうするのはなかなか難しいでしょうから、メジャーリーグでいえばイチローさんや大谷翔平選手のような海外で大きなムーブメントを生み出せる人間が出ていきやすい道をまずは僕がつくりたいです。

—— 最後に、株主様へのメッセージをお願いします。
「日本の楽器は縁遠い」という人も多いと思いますが、これまでみなさんが経験したことのないツアーをつくりたいと思いますので、生演奏を聴いていただけたらありがたいです。



【和響～Encuentro～】
先行配信：2024年4月10日
CDリリース：2024年5月24日
CEG-74 ¥2,200 (税込) ※会場・コロムビアサイト限定販売
2024年5月24日、三味線奏者・上妻宏光とチェロ奏者・宮田大による異色のコラボレーションコンサートツアーが東京で初演を迎える。同ツアーで披露されるコラボ曲を含むミニアルバムのリリースが決定。日本を代表するふたりの奏者から生まれた、斬新かつ良質な音楽を収録。

PROFILE 茨城県出身。幼少の頃より数々の津軽三味線大会で優勝し、純邦楽界で高い評価を得る。国内外アーティストとのセッションは各方面から注目を集め、世界35か国以上で公演を行う。2017年の万博では日本公式催事としてプロデュース公演も行っており、その活動はジャンルや国境を越えて、津軽三味線の“伝統と革新”を追求し続ける開拓の第一人者と言える。



音楽ディストリビューションサービス「sprayer®」 新たなサービスを展開

2023年8月にサービスを開始した「sprayer®」は楽曲を配信するだけでなく、ファンを巻き込む新時代の音楽ディストリビューションサービスです。アーティストやクリエイターが抱える課題を解決するための新たなサービスを随時追加し、提供しています。今後もユーザー視点から、音楽配信に関わるさまざまな機能の拡充を目指してまいります。

楽曲制作サポート

プロの音楽クリエイターとコラボでできる新サービス。ミックスマスタリング、スタジオレコーディング、作詞作曲まで依頼が可能です。

海外音楽著作権管理

全世界に配信と著作権管理ができるようになり、配信された楽曲の著作権使用料を、国内のみならず海外で使用された分も受け取ることができるようになりました。

音声合成ソフトキャラクター

クリプトン・フューチャー・メディア株式会社が提供する「初音ミク」や、gynoid（ガイノイド）が提供する「v flower」などのキャラクターを使用した配信が可能となりました。

NEW RELEASE 新作紹介

「いないいないばあっ！」 おうちちゃんとぼうぼの 初めてのCDと映像作品が発売中

2023年4月から番組に登場したおうちちゃんとぼうぼ初めてのCDとBD・DVDが発売。CDには2023年度の「いないいないばあっ!」最新曲をすべて収録しており、ボリュームたっぷりの全21曲で子どもも大人もいっしょに、楽しく盛り上げられる1枚になった。BD・DVDにはワンワン、おうちちゃん、ぼうぼが歌う、ノリノリのリズムで歌っても踊っても楽しい曲や親子で遊べる歌が60分以上たっぷり収録されている。



いないいないばあっ!「やっほー☆」
【CD】2024年2月21日発売／2,530円（税込）
【BD・DVD】2024年3月20日発売／3,850円（税込）

約1年半ぶり、待望の新曲は テレビアニメ「ニンジャラ」 オープニングテーマ

『OEDOEDO』は、大人も子どもも街に飛び出し、たくなるようなきゃりーぱみゅぱみゅらしいハッピーなダンスチューン。2022年から放送されている人気テレビアニメ「ニンジャラ」の新オープニングテーマであり、彼女がこれまで務めてきたオープニング曲『メイビーベイビー』、『一心同体』に続く、きゃりー×アニメ「ニンジャラ」第3弾の楽曲となっている。



きゃりーぱみゅぱみゅ「OEDOEDO」
2024年4月12日／デジタル配信

バンド活動10周年イヤー 1枚目となる最新作を デジタルリリース

「没頭できる“何か”に、熱中出来る“瞬間”を大切にしたい」という想いが込められた楽曲『実感』。そして「不安と共に迎える日々をこのトラックで踊りこなして」と言わんばかりの、独特の浮遊感がたまらない楽曲『次の朝』も収録。「世界中の毎日をおどらせる」をテーマに掲げる彼らに相応しいダンスミュージックとなっている。



Lucky Kilimanjaro「実感」
2024年4月24日／デジタル配信

日本コロムビアへの レーベル移籍 第1弾リリース作品

2023年に全国22公演が行われ全公演ソールドアウトしたコンサートツアー『ALL BEST 2』。ツアータイトルにふさわしくオリジナルヒット曲や「VOCALIST」シリーズなど珠玉のセットリストで行われたコンサートから全曲完全収録したライブアルバムがリリース。徳永英明*の歌への意気込みが現れた「ベスト」が詰まったライブアルバムとなっている。



徳永英明「Concert Tour 2023 ALL BEST 2」
【CD】2024年6月19日発売／（通常盤）4,400円（税込）
※「徳」は旧字体、「英」は草冠の間が空きます。

会社概要

株式会社フェイス		取締役および監査役（2024年3月31日現在）		アドバイザー・ボードを構成する社外有識者	
（2024年3月31日現在）				（2024年4月1日現在）	
事業内容	コンテンツ配信プラットフォームの開発 およびビジネスモデルの構築	代表取締役社長	平澤 創	島田 精一	元日本ユニシス株式会社 代表取締役社長／ 株式会社お金のデザイン 社外監査役／株式会社 ISE 最高顧問／ 学校法人津田塾大学 理事長／国立大学法人千葉大学 経営協議会委員・学長選考会委員／ 学校法人根津育英会武蔵学園 評議員／内閣官房 産業遺産に関する有識者会議 委員／ 公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団 評議員／ 一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト 特別顧問／ 公益財団法人日伊協会 会長／公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団 評議員／ 日本ヴェルディ協会 理事／
設立	1992年10月9日	取締役副社長	吉田 眞市	大八木 成男	帝人株式会社 名誉顧問／東京電力ホールディングス株式会社 社外取締役／ アサヒグループホールディングス株式会社 社外監査役／
資本金	32億1,800万円	専務取締役	中西 正人	堀 裕	堀総合法律事務所 代表弁護士／日本ローエイシア友好協会 常務理事／ 前内閣府 公益認定等委員会 委員／みずほグループ各社 顧問弁護士／ 株式会社バソナグループ 特別顧問、指名・報酬委員会委員長／ フィデアホールディングス株式会社 社外取締役／ JUKI株式会社 社外取締役／在日ロイヤル・ダッチ・シェルグループ各社 監査役／ 国立大学法人千葉大学 理事・副学長、経営協議会委員・客員教授／ 公益財団法人国連大学協力会 監事／ 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構 理事／ 公益財団法人渋沢栄一記念財団 理事／日本郵政グループ各社 顧問弁護士／
上場取引所	東証スタンダード市場（証券コード4295）	取締役	鈴木 千佳代		
従業員数	106名（連結429名）	取締役	別所 哲也		
		社外取締役	正宗 エリザベス		
		社外取締役	水戸 重之		
		社外取締役	瀧口 匡		
		常勤監査役	長吉 晋		
		社外監査役	清水 章		
		社外監査役	菅谷 貴子		

フェイス・グループ コンテンツをユーザーに届けるためのあらゆる機能を有し、ワンストップサービスとしてプラットフォーム化できる企業グループです。

